

○床衝撃音：日本建築学会の遮音等級・生活実感との例・適用等級の一覧及び適用等級の意味

対象：集合住宅〔居室〕

○軽量床衝撃音 良← →悪い

遮音等級		LL-30	LL-35	LL-40	LL-45	LL-50	LL-55	LL-60	LL-65	LL-70	備考
日本建築学会適用等級 (集合住宅：居室)		特級以上		特級	1級	2級		3級			
床衝撃音 (軽量)	椅子の移動音、物の落下音など	聞こえない	通常ではまず聞こえない	ほとんど聞こえない	小さく聞こえる	聞こえる	発生音が気になる	発生音がかなり気になる	うるさい	かなりうるさい	高音域の音、軽量・硬衝撃源
	生活実感、プライバシーの確保	上階の気配を全く感じない	上階の気配を感じることもある	上階で物音がかすかにする程度気配は感じるが気にはならない	上階の生活が多少意識される状態大きな動きはわかる	上階の生活状況が意識される	上階の生活行為がある程度わかる	上階の生活行為がわかる	上階の生活行為がよくわかる	たいていの落下音ははっきり聞こえる素足でも聞こえる	生活行為、気配での例
日本住宅性能表示基準 軽量床衝撃音対策等級		等級5				等級4	等級3	等級2	等級1		

○重量床衝撃音 良← →悪い

遮音等級		LH-30	LH-35	LH-40	LH-45	LH-50	LH-55	LH-60	LH-65	LH-70	備考
日本建築学会適用等級 (集合住宅：居室)		(特級以上)			特級	1級	2級	3級	3級 <sup>1)</sup>		
床衝撃音 (重量)	人の走り回り、飛び跳ねなど	通常ではまず聞こえない	ほとんど聞こえない	かすかに聞こえるが遠くから聞こえる感じ	聞こえるが意識することはあまりない	小さく聞こえる	聞こえる	よく聞こえる	発生音がかなり気になる	うるさい	低音域の音、重量・柔衝撃源
	生活実感、プライバシーの確保	上階の気配を全く感じない	上階の気配を感じることもある	上階で物音がかすかにする程度気配は感じるが気にはならない	上階の生活が多少意識される状態大きな動きはわかる	上階の生活状況が意識される	上階の生活行為がある程度わかる	上階の生活行為がわかる	上階の生活行為がよくわかる	たいていの落下音ははっきり聞こえる素足でも聞こえる	生活行為、気配での例
日本住宅性能表示基準 軽量床衝撃音対策等級		等級5				等級4	等級3	等級2			

1)木造、軽量鉄骨造またはこれに類する構造の集合住宅に適用

※生活実感は「室内の暗騒音を30dBA程度としてまとめた」もので、「暗騒音が20~25dBAの場合には、生活実感が1ランク左に寄ると考えた方がよい」との注釈がある。

○日本建築学会の遮音等級の意味

適用等級	遮音性能の水準	性能水準の説明
特級	遮音性能上とくにすぐれている	特別に高い性能が要求された場合の性能水準
1級	遮音性能上すぐれている	建築学会が推奨する好ましい性能水準
2級	遮音性能上標準的である	一般的な性能水準
3級	遮音性能上やや劣る	やむを得ない場合に許容される性能水準

注)表記について(JIS表記との関係)：軽量床衝撃音 LL=L<sub>ir,L</sub>、重量床衝撃音 LH=L<sub>i,Fmax,r,(H1)</sub>

出典：建築物の遮音性能基準と設計指針〔第二版〕